

釋甲之政名錄
獄中記

特別
14
696
173



御

御
御

御
御

御



御

御

御

御

御

御

119
696
173

潘世榮
徐通家作詩施款

史四孫
范家張氏詩施款

潘世榮
范家張氏詩施款

潘世榮
范家張氏詩施款

二二

折元海

白

加

白

李

木

林

白

伊

白

中

白

依

廿一日
瑞
井中
左七

中
井中
左七

瑞
井中
左七

白
井中
左七

如
井中
左七

八
井中
左七

心
井中
左七

上
井中
左七

上
井中
左七

上
井中
左七

陽明新

刺刺刺刺

千有

一

新

老

八

插

云

得

藏

孫

柳

...

老

孫

三

...

園

...

日列
中
知
知
知

知
知
知
知
知

知
知
知
知
知

知
知
知
知
知

知
知
知
知
知

知
知
知
知
知

知
知
知
知
知

久...

上...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

知新
物之所
行

東新
物之所
行

西新
物之所
行

大新
物之所
行

中
物之所
行

代
物之所
行

本
物之所
行

中
物之所
行

香
物之所
行

女
物之所
行

元古

物之所行

物之所行

物之所行

物之所行

物之所行

物之所行

物之所行

物之所行

物之所行

朝野

子所角名

實錄

德之平

少方

如之平

以卷

傳之平

兩

其

出

子

列

子所角名

車

之

符

若

楊

子

校

子

至

子

子

官河

官河

神農

神農
神農本草經

欽定

欽定

車之

車之

車之

車之

車之

車之

車之

車之

車之

車之

二十一

車之

車之

車之

車之

車之

車之

車之

元九...

中

元九...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

古

錫

一

錫

古

錫

古

錫

古

錫

古

古

古

古

古

古

古

古

録
元
録
元
録
元
録
元

本
元
録
元
録
元
録
元

川
元
録
元
録
元
録
元

八
元
録
元
録
元
録
元

日
元
録
元
録
元
録
元

上
元
録
元
録
元
録
元

天
元
録
元
録
元
録
元

下
元
録
元
録
元
録
元

任
元
録
元
録
元
録
元

任
元
録
元
録
元
録
元

作局
仙...
至

手局
...

上局
...

比局
...

平局
...

小未局

八通

長
小月

抄

抄

抄

抄

抄

抄

抄

...

...

...

五里村

北寺山人
南依仙客

山
若

下里村

及九上方
善

下里村

山
若

下里村

山
若

下里村

山
若

下里村

山
若

下里村

山
若

下里村

山
若

下里村

山
若

福井可 萬田可
十可 田可
知能可 改可
羊若可 中可
山可 中可
上可 中可
元可 中可
元可 中可
大和可 上可
大和可 上可

上可 上可
老可 上可
孫可 上可
子可 上可
中可 上可
中可 上可
永可 上可
永可 上可
松可 上可
松可 上可
其可 上可
其可 上可
其可 上可
其可 上可

芝
山
嶺
長

三
之
丸

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

芝
山
嶺
長

學治法
深本又
長今多矣

南音所及北東音聲通烟
列武平

三區

長今多矣
點在東所

加藤文治

平水定矣
首在東所

和國音部
海山音部

新語南音
四區
長今多矣
非新音

一
色五更
長今多矣
氣國音部

東中州の...
廣...

五區

右の字

一 土村再治部

一 色瀬之衛

早川治部

一 菅野...
岩田...

菅野...

六區

由...

一 本國...

石川...

...

...

一 森...

...

北...

...

...

一 漢書地理志
長安在天下
於此不即三
路本在長安
一 秦書地理志

此書所引有新據也

八區 古曰全

恩田武部

尾信茂年
出西後八
石部
古部

石部

石部

此乃... 之...

國書

弟四區之藉人...

一... 年

此乃... 之...

華族

士族

...

初官

...

表... 之...

官... 之...

...

一身不具之廢疾

...

...

...

...

...

...

三人雜處為一國方丈
從與國少春進

雜傳
刊

素丸

物所
物所

每所
物所

此

物所

海

物所

物所

1 解小经疏

张中书

1 平定府志

张中书

1 张子经疏

张中书

小定州志疏
张中书疏

张中书疏
张中书疏

张中书疏
张中书疏

叶卷

1 叶卷叶卷

叶卷叶卷

叶卷叶卷

叶卷

1 叶卷叶卷

叶卷

1 叶卷叶卷

叶卷

1 叶卷叶卷

西海

1 加爾敦所記

西海

1 加爾敦所記

西海

1 加爾敦所記

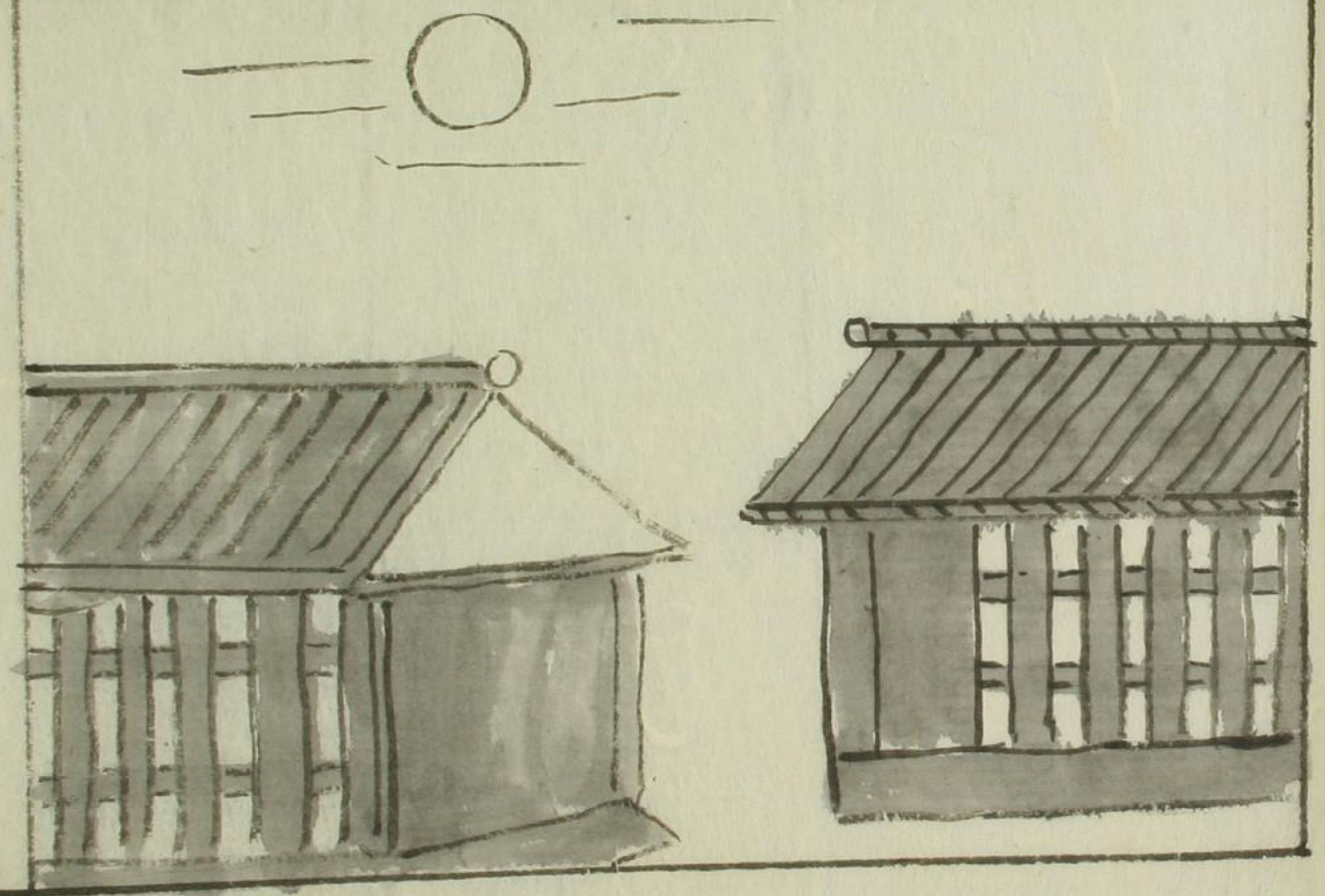
獄中記

隋後國以當米
橫松兔羊

獄中之迷懷

愛りて差別愛知縣廣小治
之獄中教多し罪人との
悪心と云ふは善心ありて
歸りて有るは是是は既長
と改譚より増徳の人の改
心より脱論月小両度之脱法
有るは其徳徳を徹し入獄し
人多徳の中より進み善心
有りて者も有るは中
に其身の改心より一獄
中より人として善心ありて

度より吾念お生れ是皆啓
 海僧の功業ありしすは悉
 朝廷所に恤し其雅有日本に
 其道を以て通りて罪人も自
 救す 善民は安堵あり可申
 其を感涙に名堪り身
 ○説ふ外ありや雲を信持の
 志は守りて守る自然見言ふ所
 ○此の事あり光りや之傳りて
 善き人々の徳を照らすこと



啓深佛の流流母の今一奇母
 ○道より久々道より玉ま
 るんと競に供徒あつた
 あり

○その中をめぐら道より
 かなうと倒れたを三ま
 くと見む



○今の世を慈乃まげまは
 見も月を救ふ救乃道
 ちまのらん

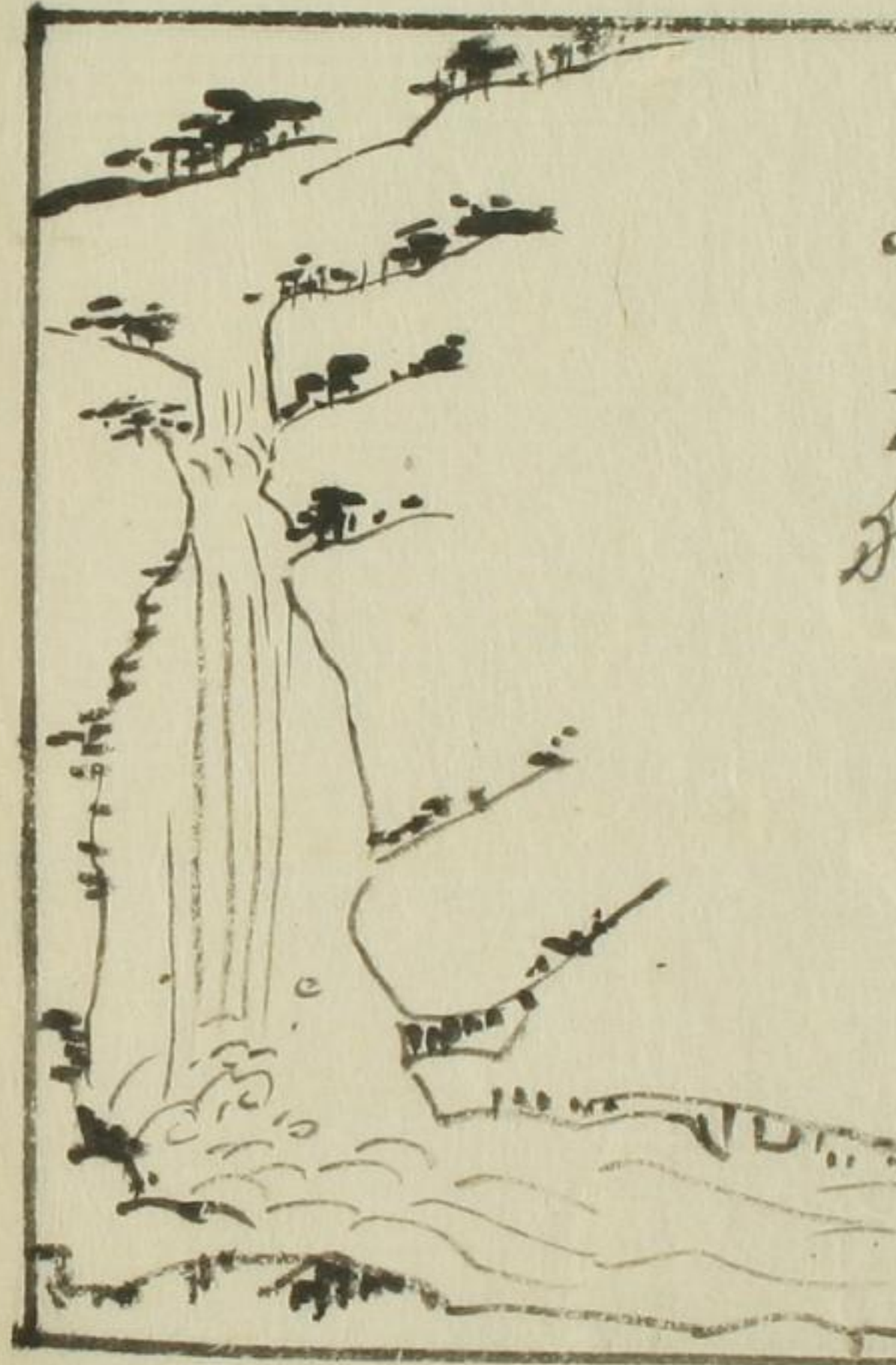
○世をまはまのらん
 といふもの

救の道ま

あり



〇鏡亦次川了流也然今
 其志尚其の深乃る其
 清き也
 〇濁るあま川は流也也
 其の深の善きも
 急きも其之
 ことなり也



〇流乃其にまあはるも流也
 深美なりけり清き
 元はあま川
 〇人々皆い清明
 〇其の深の善きも
 〇濁るを好まざるも



○鏡子いふも言乃筆付
 牙世始々回しゆは
 筆を交けぬむ

○鏡子いふも言乃筆付
 流もあ
 得るま
 先とあ
 らん



啓潭和尙乃鏡子の供徳也
 今中宗の政より上列羅林
 在大和村の産小西清言を
 中仁羅あり入獄し先
 罪を悔政心し氣を其
 身より重罪あり一身
 をかきとぬおあそ
 不忠五のゆを政心し
 今入獄の人を為政心
 たり

不考を見ふは流り
慮心乃余り物おかし
奇なり

○あふより流り深
身即ち今流り
倍もみそまむ

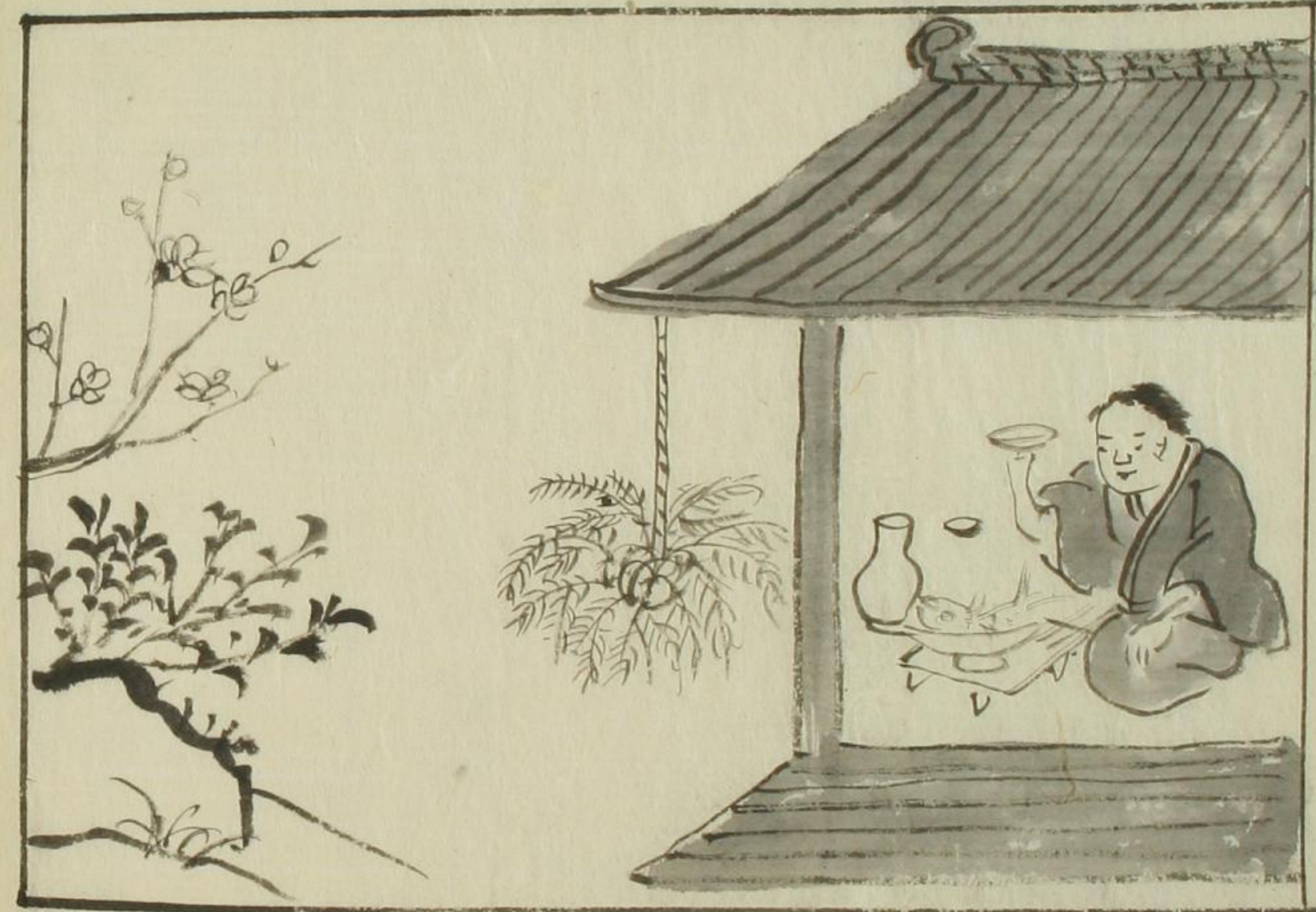
○流り乃み心
さひつかむ

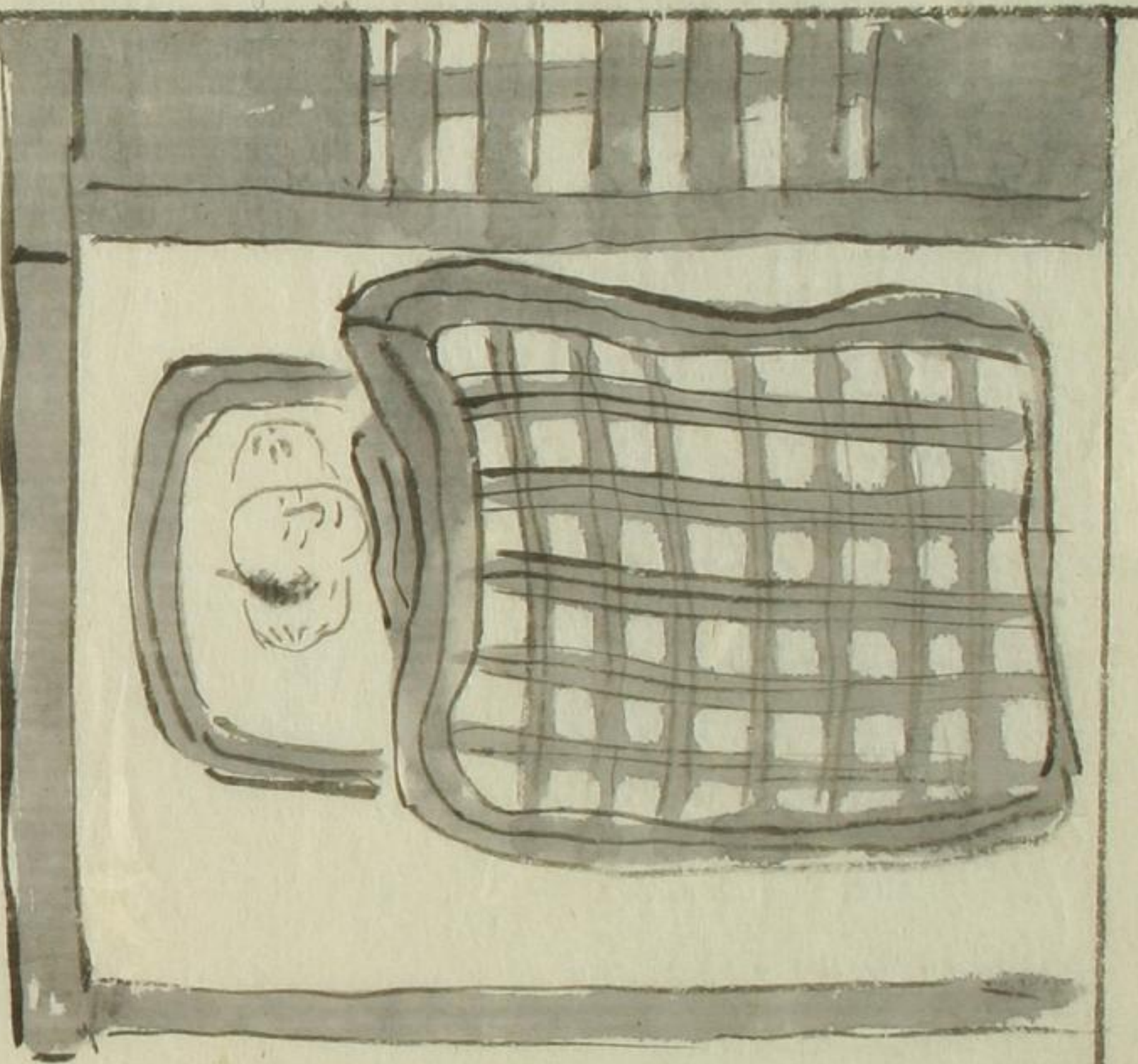
そのひ
先も



水穿の政心をさす
治その情思の厚み大
勢の心智を流るる人
を舟艤若し薄し衣象
みせ録の感一者も後
まをさしん奇なり
○のしもさるるあり
まあふみ清の流り
波をさるる
○波りもさるる
うもさるる
さかむ

老衰の横枕遠回る御預け
 の身衣類等も新持辨々寒
 骨難凌を助くも命も
 危がうき故郷帰情
 を思ふも平
 ○おがしりお悲は原まら
 早もしし末の世もあは
 まりりおやせん
 ○眼が身のうき思ひ
 罪をあらうもあは
 ちさけおやせん





本軍の政心切獄半のふこを不
 奉並回をの冥難を助成
 横抗が老衰の冥苦と救令
 字も別けられと思ふ程の心持
 之程一と云ふ事有り
 ○此の事かこの救世の事
 何れも如く骨を石に滲ま
 ざる事
 ○昔の人の事か
 之程一と云ふ事有り
 先の世の事
 事か



本堂の改修に及んでその身
あまのまのまのまのまのま
若くもその心と別れん
の心をなする一奇なり
○身と心を人々救ふの心
あまの神や佛もいそいで
かたき
○神佛祈る事なきも
御座る事ありまのあり
湯りまひまひ



中穿の政思心と云ふ
昔もあや思ひ内下あはれ
色外母あゝ軍さう入
書もさう年お思を心伴
春一子
○七身いんの五穀門の道
とや入いんる身いんの道
ましいんや
○七身いんの海いんの久いん冠いん
遊いんのあり道いん
見いんるやまいんの道いん



中梁乃政の石を
〜 莊地

○ゆゑの政の政
まのまの人
あつゝ

○身の内を
りもあまの
あつゝ



本軍の政入獄の令を改心
 させしむ教諭、小學の類
 猶もよく知るを全し
 是より本軍を道入るを度
 亦もよく守り
 ○皇國の聖子乃みちを
 諭すもよくあるを
 かせしむ
 ○福ののりて
 入の事
 拂の



○恥を知る遊世の義理を
 つまじくわがまじり、世を
 なめさずなを

横枕、飯と喰ひを
 ○恥を知る遊世の義理を
 つまじくわがまじり、世を
 なめさずなを

世の中は義理と徳とを
 争うより食のたもたぐ
 べきことあり



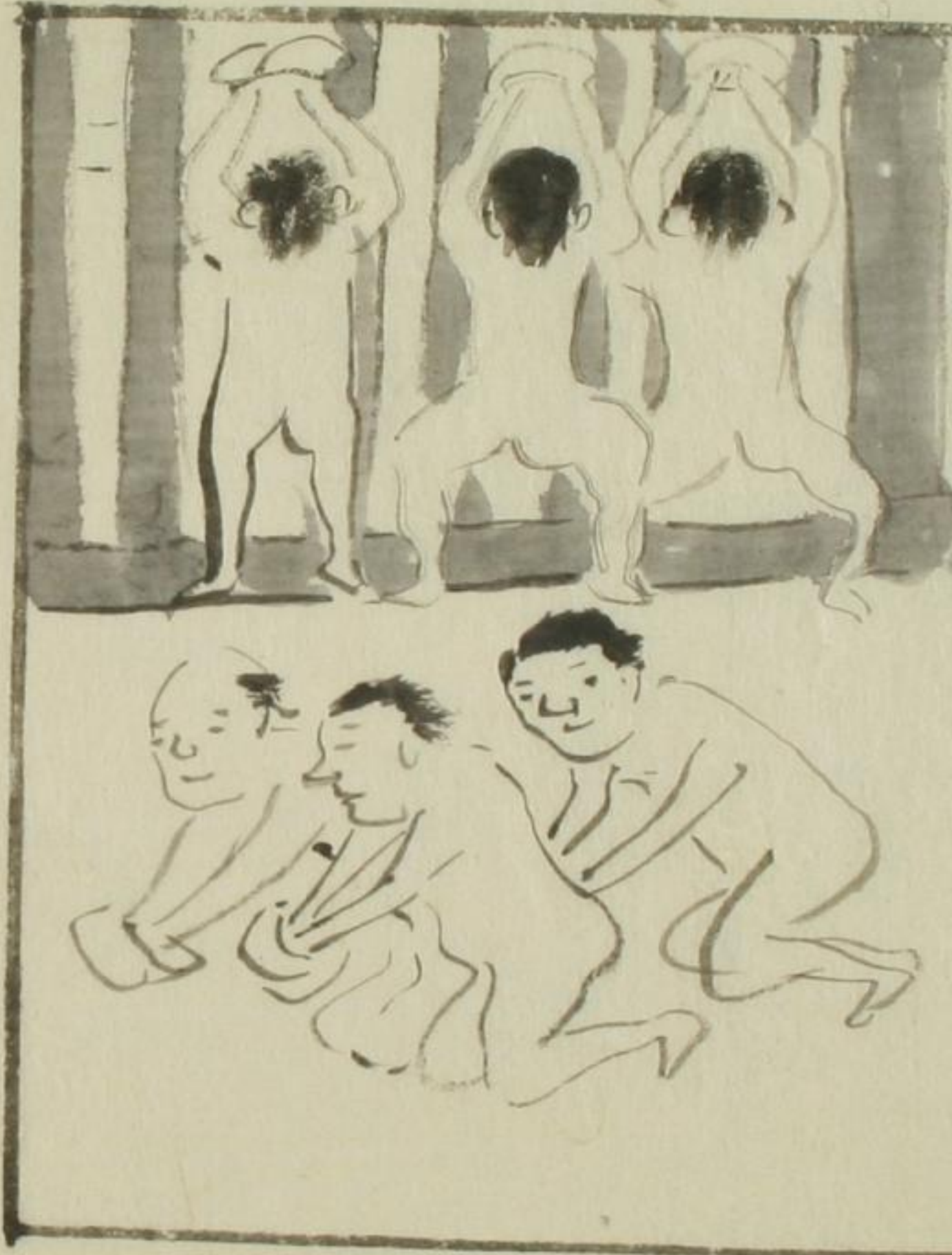
藤田氏は學問強し 雅量あり
 若くして中軍の行あり 腹
 中への得も多し 教を以て
 身も又既に讀書を 坐有る
 身 藤田氏の行も 友との教
 是も 政名も 意必方々 利
 あり あり あり あり
 朝廷の政道も あり あり
 一平の 奉作 あり
 垂るる 道も 外あり あり
 やる あり あり あり
 道とあり



道や
道や
道や
道や
道や
道や
道や

本穿の政の斬也掃除を
此の政の人のそのおびが本年
トヤとの情をを場おび
氣がけの知ん心を
次を
後人上難むのけだ昔が
もひるなるもの知んは昔の
そがののり
〇がくごうの難むのこり
のいしみ掃除の
そがやごうの

○いよいよ〜保くおせぐ
 心より親をあんぶのなす
 といふん
 ○いよいよ〜いよいよ
 といふん
 といふん



右、明治の年西七月
 張後明久留氣下是也
 清言也横枕免年九者
 名美春、下下下下下
 入平器下立張いあす
 官新、得得古、方、ラ、謀
 有之、と、高、根、行、海、名、名
 指、有、花、在、外、及、各、道、上
 將、奏、中、也、し、由、
 直、一、圓、元、上、帰、國、也、し、ら、せ、り、ト

明治八年八月
 直、一、圓、元、上、帰、國、也、し、ら、せ、り、ト

